

栗橋小



調理室の前の管理栄養士。ていねいな説明をいただきました。

自校調理の給食はすばらしかった！

子どもたちと同じ給食を試食させていただきました。

「温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに」この言葉が実感できる美味しい給食でした。

残菜は680食提供して1kg未満、カレーの時間はほとんど出ないとのこと。食べ終わった食器を届ける子どもたちが、「おいしかったです。ごちそうさまでした」と声をかけます。作る人の顔が見えることが残菜にも影響していると思います。

調理員さんたちの励みにもなっていると思います。地元産の食材を使用した。地元産の食材を使用した。地元の観点からも自校調理方式による給食はすばらしいと思いました。

栗橋小では午前中の授業は12時15分に終わります。11時45分に作り終えた給食は、配送車を使うことなく、クラスごとに分けられます。調理師さんが手ぎわよく作業を進め、約30分後には、出来立ての給食が子どもたちの机に並びます。



11:40 栗橋小調理終了間近です



11:20 古河では掃除も終わりです

古河市の給食センターは

教育環境常任委員間では5月12日（金）行政視察で、古河市の給食センターに行ってきました。

総事業費35億円。平成26年9月から稼働した施設は調理能力が1日1万2千食で、現在は1日26校分（古河・総和地区中学校7校、総和地区小学校10校、三和地区小中学校9校）9千500食を提供しています。職員は市職員7名、栄養係は県職員4名で、内訳は栄養教諭3名、栄養職員1名です。調理方法はドライ方式で、1日3献立、アレルギー対応食は、卵と乳を対象とした除去食で

調理業務は民間に委託し、調理員さんは社員・パート63名です。調理は10時30分頃には出来上がります。

配送業務はシルバー人材センターに委託しています。9台の配送車で運転手14名、助手10名の計24名です。私たちが到着した10時30分頃にはすでに配送車は出発してしました。遠い学校で約30分の配達時間です。

調理後、約2時間以上経過してからのお食事になります。出来立てをすぐ食べる栗橋小の自校方式とはずいぶん違います。試食もさせていただきました。

古河市は自校調理方式による学校給食も実施中
古河地区小学校7校に約3千食を提供しています。こちらは市の直営で、栄養士7名、調理師36名で運営されています。

古河市は平成17年に総和町・三和町と合併して新古河市が誕生。合併前に自校方式を進めることを決定していたことから、大規模給食センターの対応ではなく、自校調理方式により実施中です。無理に統一していないことに注目です。

憲法施行70年 5万5千人参加！



「施行70年いいね！日本国憲法―平和といのちと人権を5・3憲法集会」が有明コロシアムで開かれ、日本共産党・民進党・社民党・自由党の各党首、代行、評論家ピロコさん、映画監督山田さん、作家落合恵子さん、弁護士伊藤真さんなど多彩な方から「今の政権の傲慢さ、危険性、日本国憲法の価値と重要性について」の訴えでした。参加した5万5千人が改めて、9条をないがしろにして無制限の海外への武力行使に道を開く安倍政治をストップさせよう、基本的な人権、主権在民、平和主義を何としても守ろうと気持ちを新たにしました。安倍首相は、憲法9条に自衛隊を明記する改憲を、2020年に施行すると表明しました。これは、憲法99条の「憲法尊重擁護義務」違反であり、立法府に対する不当介入として「三権分立」にも違反します。さらには、国会での説明拒否をし、「読売新聞を熟読して欲しい」と言い放ち、「総理と総裁は別だ」として国民の代表機関である国会における説明責任を放棄しました。首相としての資格はありません。平和を願う皆さんと共に、共謀罪を何としても廃案にし、憲法9条を守りましょう。

現地存続こそが患者・住民の願い！

4月29日、「済生会栗橋病院の存続を考える市民会議」主催で開催された「済生会栗橋病院の移転説明会・意見交換会」には400人以上が詰めかけ、栗橋文化会館は、現地存続を願う市民でいっぱいとなりました。市民の声を受け止めようと18名の市議も出席しました。



会場のイリスいっぱいになった400人の参加者

冒頭、医師会会長の浅川医師から挨拶があり「この地域を医療過疎の地域にしないではない」と熱く語られました。

昨年10月就任された長原光院長さんからの経過説明では、済生会は「社会福祉法人」無料低額診療など現在16%の患者さんを診ており、財政的には非常に厳しい経営を進めている。「あり方検討委員会」で検討を進めて来たが意見は一つにま

とまらず、加須市に新病院を建設する案と、久喜市は移転に反対で現地にて新病棟建設を希望しているとの両論を、理事会に報告する。

済生会病院が示した加須市に200床、栗橋に150床の分院案については、経営的に大丈夫かどうかなど、済生会本部からも厳しく問われ、今後1年ぐらいかけて調査していくことになるだろう。移転については現在、白紙の状況との説明がされました。

意見交換では、市民から「旧栗橋町が誘致した病院でありながら、地元は何の相談もなく加須市に移転する『覚書』を取り交わしたのは納得できない」南栗橋在住の方からは「済生会病院があり将来安心できると思いついて来た。安心の砦として残ってほしい」など率直な意見が出されました。長原院長さんからは、「覚え書きを交わす前に市民の皆さんに相談する機会があればよかった」と語られました。

また「久喜市から現地存続を決めればそれに見合った支援をするとの意向が示されている。土地や応分の負担をすれば、現地在地で存続できるのか」との問いには、「資金があればここでやりたい」との意向も示されました。



参加した市民からは、長原光院長の「市民の皆さんからアイデアをいただきたい」との説明を受け、参加した市民から存続の可能性は残されている。今後も現地存続を求め、具体的な提案も示しがんばりたい」との声も聞かれました。

県済生会理事会 開催される

新病院建設で詳細調査 移転は決定していない

5月8日には、理事会が開催され、栗橋病院移転が議案として出されました。新聞報道では「加須市に新病院を建設する案で詳細調査を一年以上かけて詰め、済生会本部が最終結論を出すことが、全員一致で確認された」としています。

理事会には、久喜市長も副会長として出席し、採決権はなく「慎重な検討を求め」「決定は重く受け止めるが遺憾、病院経営がうまくいくか不安は拭えない」とコメントしています。

一年以上かけて詳細調査の意味するところは何か

「意見交換会」や「理事会決定」で「一年以上かけて詳細調査」するとしています。その内容は次のようなことが考えられるのではないのでしょうか。

- ① 加須と久喜に「分院」した場合赤字必至と言われる中、病院経営が成り立つのかどうかの試算。
 - ② 新久喜総合病院による医療環境変化の見極め
 - ③ 久喜市の「現地で病棟建て替えた場合、それに見合った支援をする」とは何を支援してもらえるのか、信頼関係の構築と具体案の見極め。
 - ④ 救急救命センターの医師を確保し、運営が起動にのるかどうかの見極め。
- 以上のことから移転は決定していません。引き続き、久喜市・議会・市民が力を合わせ、現地存続に向け頑張りたいと思います。

鷺宮で コミュニティ祭り

初夏の日差しのもと、地域のにぎわい！



14日、鷺宮総合支所の駐車場でコミュニティ広場で、毎年恒例の「コミュニティまつり」が開かれました。

各市民団体が出店した模擬店や、バザーなどが立ち並び、近隣や、市内各所から大勢の家族連れが、舞台での出し物や、買い物などに楽しんでいました。

一方で、訪れた市民からは、出店団体が減少傾向にあることや、各所にあるショッピンモールなどの「競争」により、参加者も減少傾向にあることが心配だ、との声が聴かれました。来年に向けては、参加者にとって魅力ある企画になるよう、実行委員会での積極的な検討が求められます。